

第二十六回企業活性化研究分科会・議事録

<第二十六回 2009年11月21日(土) 時間:13:30~17:00 於:専修大学(神田校舎)>

1. 参加者:山本、井端、大野、星野、大柳、古山、魚谷、渡邊、横山、高市、小林、菅原、宮川、斎藤、酒井、杉本

2. テーマ:企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ:『今後の活動に関して』

・報告者:大柳康司(専修大学)

・配布資料:10枚

・報告内容の要旨

前回で終了した「継続企業的前提に関する分析」では様々な分析に関する反省点が出てきた。そこで、今後の活動内容として、2つの方向性が示された。1つ目は、前回まで行われていた研究をさらに発展させること、2つ目は前回まで行われていた現在の研究テーマに幅を持たせるため、別のアプローチから検討し、将来的に、現在の研究アプローチと今後の研究アプローチの二つを融合させることで、全体を完成させることである。

議論の結果、今後の方向性として2つ目に示された、別のアプローチ方法がとられることとなった。そこで、知識の共有化を図るために先行研究から企業活性化について学ぶ。使用する文献は、日本における先行研究は少ないため、アメリカにおける先行研究を使用する。しかし、アメリカにおける先行研究では、統計手法が多く用いられているため、統計の知識が必要となる。そこで、先行研究のサーベイとともに統計手法に関する理解を深めることも同時に行う。さらに、企業会計に大きな影響を及ぼすことになるIFRSについても理解を深めていくこととなった。

その一方、先行研究のサーベイだけではなく、粉飾決算をし、倒産した企業のデータをもとに分析によるアプローチも行う。詳細については、今後話し合いの場がもたれることとなった。

(文責:杉本敦彦(専修大学大学院))